



東京浅草中央ロータリークラブ 週報

〒111-8765 東京都台東区西浅草 3-17-1 浅草ビューホテル 2階
TEL. 03-3847-1111 FAX. 03-3847-0154 URL: http://www.asachu-rc.jp

2013 - 2014 年度テーマ

R.I. テーマ 「ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を」
R.I. 会長 ロン D・バートン
地区ガバナー 吉 田 建 二
クラブテーマ 「参加し行動しよう」
クラブ会長 藤 掛 靖 元

本日の卓話

「いつやるか? 今ではないでしょう?」
元三井銀行支店長 菊池哲郎様

今後の卓話予定

10/ 9 「日本が危ない! — 能力の劣化とその処方箋」
株式会社 企業変革創造 代表 藤田 聡様
10/16 「ロータリー物語」 長沼・海内両地区職業奉仕副委員長
10/23 「私のひとり言」 学校法人 立教学院理事長 糸魚川 順様
10/30 「更に進化する日米関係 — 新しい駐日大使をお迎えして」
オレゴン州駐日代表 目代 純様

2013年10月2日

第1331回例会

会長 藤掛靖元
幹事 伊石佳高



10月お誕生日祝

8日(65才) 尾泉良和君
18日(70才) 笹生貞介君
20日(66才) 古谷輝彦君
25日(75才) 松崎文郎君
26日(77才) 永井健一君

前回(9/25 1330回例会)の記録

来訪者紹介

◆ゲスト 1名 横浜市立大学名誉教授 矢吹 晋 様
◆ビジター 2名 東京日本橋RC 早川英雄 様、橋本 将 様

出席報告

総会員数	休会	出席免除	出席	欠席	出席率	修正出席率
45名	3名	3名	39名	1名	97.50%	1328回例会修正 欠席4名・出席率90.00%

東日本大震災で被災された皆様に一日も早い平和と復興がおとずれますようにお祈り申し上げます。このような時こそ、我々ロータリアンは『五大奉仕』を実行・実践しましょう。明日の日本と世界はみんなの手の中に!

会長報告<藤掛会長>

・地区会員増強セミナーについて

9月20日に京王プラザホテルにて地区クラブ奉仕委員会主催、地区会員増強セミナーが開催され出席いたしました。当クラブからは地区クラブ奉仕委員の岩戸さんが出席いたしました。概要は下記の通りです。

1. 基調講演 第2570地区バスターガバナー

市川伊佐夫氏

市川氏の人生観、人生の最大の楽しみは「より多くの友と深い絆を結びより実りある人生を送る事」をベースにご自身の体験談などを織り交ぜ、独自の増強についての考え方を披露いたしました。

- (1) ロータリーをエンジョイするとは、「多くの生涯の友を得ること」です。
- (2) 増強とはまさに「生涯の友を増やすこと」であり自分の人生を豊かにすることです。
- (3) 「自分のクラブさえ楽しければ良い」ではいけない。わがクラブは世界一のクラブだ、との思いが大切です。その思いを持ち、他クラブの方、他の地区の方々とのコミュニケーションにより、より多くの人たちと友達になることが出来ます。
- (4) 一人一人が「友を得ること」の大切さに気付けば、退会防止に繋がりそれが自然と増強にも繋がるのです。

2. 各分区ガバナー補佐による本年度会員増強への取り組みについて

増強=退会防止との観点から、お互いのコミュニケーションをより緊密にする工夫、また、幾つかの地区ではIMにこのテーマを入れ、多いに議論することで会員一人一人が増強へのマインドを高めて行く取組などが披露されました。わがクラブの増強ツール「ランチタイムへのインビテーションカード」も紹介されました。

「本当にうちのクラブ良いよ、是非来なよ」との思いが持てる、これが自然と友達を呼ぶ事となると思いました。私も、微力ではありますが、その様なクラブづくりを進めて行きたいと思います。

幹事報告<伊石幹事>

- ・10月のロータリーレートは 1ドル=100円となっております。

委員会報告

<親睦活動委員会 浜中委員長>

- ・復興市懇親会に多くのご参加を頂き、ありがとうございます。来週例会にて、7,000円の会費を集金させていただきます。

<宮村前幹事>

- ・2012~2013年度決算理事会にて承認されま

した。決算書はポケットに入れましたのでご確認下さい。不明な点は前会計まで。

<会員増強委員会 小林(雅)委員長>

- ・会員増強のカードを配りました。よろしく願いいたします。

ニコニコボックス

<藤掛、伊石>

- ・矢吹様、本日の卓話よろしく願い致します。

<山尾、天笠、宮村、関原、古谷、植木、永井、浜中、岩戸、斎藤、藤田、上原、原田>

- ・本日の卓話「尖閣諸島問題」横浜市立大学

名誉教授 矢吹晋様、よろしくお願い致します。

<小林(博)>

- ・皆さんに御心配をおかけいたしました、何とか退院してまいりました。お見舞いにいらしていただいた方はじめ、お世話になりました方々、ありがとうございました。

<藤掛、伊石>

- ・小林博さん、無事生還おめでとうございます。充分にご自愛下さい。

<山尾、中村、宮村、浜中、上野、立野、大塚、齋藤、後上、永井、藤田、高木>

- ・小林博さん、退院おめでとうございます。これで夜まわりは当分お休みですね。

<天笠>

- ・娘の家がやっと出来上がりました。3人の子の家を用意したので親として一安心です。

<小林(雅)>

- ・古谷さん、大相撲のチケット有難うございました。久しぶりに楽しみました。

<山尾、後上、中村、加藤>

- ・ジャイアンツ、リーグ優勝おめでとう。クライマックスシリーズもガンバッテ下さい。

<大塚、井田>

- ・百歳以上5.4万人、43年連続で過去最多を更新。皆様も百歳を目指してガンバロー！

卓 話

「尖閣問題の核心」



横浜市立大学 名誉教授

矢 吹 晋 様

1972年9月、田中角栄・周恩来の首脳会談で、尖閣列島についてどういう話があったのか。日本側の記録を見るとあいまいであり、一方中国側の記録はかなり具体的だ。そして会談の内容が「日中間が正常化した後にゆっくり議論する」ものであったことがうかがえる。本当に尖閣列島は日本のものなのか。海図をみると尖閣列島は大陸棚の最も遠い一角にあり、沖縄列島との間は沖縄トラフによって隔てら

れている。そもそも尖閣は台湾の付属島嶼なのだ。それを日清戦争の勝利後、下関条約によって日本が植民地とした。戦後、米国は沖縄を返還してきたが、そこに尖閣を含めるかどうかは沖縄返還交渉の最大の争点となった。尖閣の領有権については台湾も権利を主張していたのだ。板ばさみになった米国は、「返還をしたのは施政権であって領有権ではない」として、領有権については中立の立場を守った。繊維交渉を有利にするため蒋介石に譲歩した面もある。また、北京の力を恐れた蒋介石は尖閣に米国の射爆撃場を設けてもらった。一方、北京政府も米国が尖閣に射爆撃場を設けることを容認した。これは「日本の軍国主義復活を防ぐ日米安保」いわゆる「瓶の蓋」論でニクソンが周恩来を説得したためである。その結果、尖閣は「米国の射爆撃場」であり、領有権は台湾にあることになる。「ひとつの中国」を目指す北京政府は、当然に尖閣の領有権を主張することになった。

沖縄返還に際し、施政権と領有権の分離の意味が分からなかった日本は、米国の二枚舌（台湾への約束と日本への約束の食い違い）を受け入れてしまった。佐藤栄作内閣と外務省の責任はきわめて大きい。最近、野中広務氏の中国寄りの発言が問題となった。菅官房長官は外務省の虚偽報告を繰り返しているが野中氏の行っていることにもっと耳をかたむけるべきではなかろうか。

尖閣で何か起こった場合、米国は日本の側に立ってはくれない。尖閣について、そもそも日本のものとは認めていないし日米ガイドラインでは「島嶼の防衛」は自衛隊の任務である。米中は敵国同士ではない。この意味で、日米安保は「名存実亡」である。

